

# みどりに安らぎ、交流する喜びを共に 花とみどりが描く 人々の笑顔と絆の輪

市民・企業・行政が一体となり、杜の都のみどりを未来につないでいくことを目的に河北新報社が展開する「あしたのみどりキャンペーン」。2009年のスタートから今年で15年目を迎えました。今回は、みどりを育むために花壇づくり支援を希望した学校・地域・団体の中から、みどりをきっかけとした地域交流を目指す小学校と、市営住宅の住民の皆さんによる花壇づくりの様子をご紹介します。

## 学校、保護者、町内会、みんなで作りに上げる花壇

仙台市立通町小学校



植物を植え付ける前に、まずは花壇の土台づくり。教職員のほか、保護者と町内会の皆さんが土留めのブロックの高さを丁寧に調節



ながら作業に奮闘。レングの縁取りが完成した後は、内部にも飛び石状にレンガを置いてメンテナンスに便利な足場を作り、カラーリーフやシラップ、フックミハラなどをさまざまな植物の苗を函面に沿って植えていきます。整備された花壇にハンジヤビオラやチューリップを植えようと、6年生の児童たちが集合しました。鎌田さんに苗や球根の植え方を教わる中、移植用ヤベルを手に入れた次々と植えられました。30分もすると花壇は色とりどりの植物でいっぱいになりました。作業を終え、一球根を植えるとき、土を深く握らなければいけないので少し大変でしたが、来年の春咲くことを想像しながら作業を頑張りました。と話す山田望さん。佐藤太一さんは、いろいろな植物を植えられて楽しかった。花壇がきれいになって学校全体の交流も広がります。と話し、うれしそうでした。

## 地域住民のコミュニケーションが生まれる場所に

仙台市荒井東市営住宅



完成した花壇を前に記念撮影。花壇のメンテナンスは、過度な運動や乳分のリフレッシュにも最適と話す参加者も



花壇の土に有機物の堆肥を加えてかき混ぜ、ふかふかにしました。花の配置もどすれば魅力的になるのかを話し合いながら作業を進めました



### みどりを通して 地域交流を図りたい

1808年明治21年の開校から創立135年を迎えた仙台市立通町小学校。現在、およそ400名の児童が元気に学校生活を送っています。今回、あしたのみどりキャンペーンの花壇づくり支援に応募したのは、今年4月開校に着手した後藤信博校長。みどりを通して学校や保護者、地域の方々と交流を図りたいという思いがありました。また、同校では屋上緑化の設備があつて当初はその設備へ支援も希望していたため、キャンペーンの協力者で「花と緑の力で3」プロジェクト「花の口」の鎌田秀夫さんが現地を視察。屋上の作業メニューは難しいと判断し、今回は校庭の南東にある植栽スペースに新たに花壇を整備することを決めました。

### 緑化活動はこれがゴールではなく ここからスタート

秋も深まると11月15日、シラカシやキンクマなどが植栽された約1平方メートルの場所にふかふかの新しい土が盛り込まれ、朝から花壇づくりがスタートしました。手始めは大人たちが出陣。後藤校長をはじめ、教職員や保護者、町内会の皆さんがスコップや移植用ヤベルなどで土をならし、花壇の周囲に土留めのレンガを並べていきます。レンガの高さをそろえるため、花木の根が干渉する場所は根を取り除くなど、みんなで連携を図り

後藤太一さんは「他の学年の児童にも花壇を大切にしてほしい」と話します

「卒業しても、自分たちが作った花壇を見に来たい」と話す山田望さん



植え付けを終え、児童をはじめ教職員、保護者、町内会の皆さん全員で記念撮影。合言葉は「はいチーズ」ならぬ「ずんだもち」



花プロの鎌田さんから植え付け方を教わりながら、丁寧に苗や球根を植えていく児童たち

### 住民の手で殺風景な空間を憩いの場に

仙台市荒井東市営住宅は、高層の集合住宅二棟からなり現在約300世帯が暮らしています。今回、あしたのみどりキャンペーンの支援対象となったのは、敷地の中央にあり地域住民の憩いの場となつてい「ふれあい花壇」。市営住宅が完成した当初は殺風景な空間でしたが、2017年当時の町内会長を中心に数名の住民が花壇づくりを開始。水はけが良いため土壌や、借地地であることから樹木が植えられないなどの課題もありましたが、みんまで工夫し丹精込めて手入れを続けています。「花の口」の鎌田秀夫さん「もとの花壇づくりと一緒に見守り、アドバイスなどの支援を重ねてきました。」

### 誰もが気軽に参加し 交流が生まれる 持続可能な花壇へ

秋も終わりに近づいた11月24日、支援対象の花壇づくりが行われました。今回整備するのは二段階の円形花壇。当初は花壇づくりのワークショップを行なうから作業を進める予定でしたが、荒れ左候を考慮し、初めに大まかな作業を済ませることができました。市営住宅から12人の皆さんが集まり、いよいよ作業がスタート。秋まで楽しませてくれた「リョウゲ」などの一年草を整理し、新しい土や肥料を加え、スコップを使って土をリフレッシュ。新たに上段には木ドレーサーやオミナエなどの宿根草を、下段にはヒヨドリバナ

などの年草とその間にチューリップの球根を植えるプランです。カラーバリエーションが豊富なシラカシは、庭全体の見栄えを考慮し同色の苗を円状にまとめて配置することに。また、花壇内の所々にレンガを置き、植え付けた苗や土を踏んでしまわないようメンテナンスに便利な小道を設けました。

今年で15年目を迎えた「あしたのみどりキャンペーン」。今後もみどり豊かな杜の都であり続けたいことを願う市民一人一人に、みどりがある暮らし、交流の素晴らしさをさらに広げたいことを目指し、活動を続けていきます。



「来春、色とりどりに咲くチューリップが楽しみです」と語る佐藤妙子さん。住民の皆さんとの交流が呼びかけています



花プロの鎌田さんの指導のもと開催されたワークショップでは、持続可能な花壇づくりのポイントを学びました

# わたしの好きな「みどりのある風景」

たくさんの投稿 ありがとう!

あしたのみどりキャンペーンは、特設サイトにおいて、宮城県内のわたしの好きな「みどりのある風景」を募集。その結果1,376点の写真をお寄せいただきました。たくさんの投稿ありがとうございました。今回のファイナル特集では、その中から一部を紹介します。各写真の紹介文は新聞表記基準に合わせ、一部を修正している場合があります。



長老湖…(七ヶ宿町) (2022年11月撮影) by:sn.さん  
 晩翠通・国分町辺り…(仙台市青葉区) ウォーキング中に見つけたアジサイ、とてもたくさん元気に道脇で咲いていて、見ているだけで心が癒やされました。(2023年6月撮影) by:ひまわりさん  
 五社山から望む蔵王連峰…(名取市\*) 雪の蔵王連峰を目の当たりにして、圧倒される景観です。(2023年1月撮影) by:かのちゃんさん  
 みぞれ滝…(仙台市太白区) 山は紅葉前線通過中、もうすぐ里も彩りの風景です。(2023年10月撮影) by:八木山のおやびろさん  
 熊野神社…(村田町) 参道は真っ赤な彼岸花(ヒガンバナ)でいっぱいになります。(2023年10月撮影) by:K.Suzukiさん  
 釣石神社…(石巻市) 参道に朝日が差し、受験の神が引き立つ風景でした。「落ちて落ちない」。(2023年10月撮影) by:A.コウさん  
 藻沼…(大和町) 泉ヶ岳の北西部にある藻沼。周囲のブナ林の新緑と相まってきれいです。(2023年4月撮影) by:ぶらりさん  
 栗駒山…(栗原市) 澄み切った青空の下、「神のひゅうたん」を楽しむことができてきました。(2023年10月撮影) by:アルファーさん  
 三神峯公園…(仙台市太白区) 犬の散歩コース。朝焼けがきれい! (2023年10月撮影) by:みつばちさん

うまくて、おいしい。みやぎ米

ササニシキは、愛されて60年。

ひとめぼれ 宮城を代表する主力銘柄  
 ササニシキ 和食との相性抜群  
 だて正夢 もちもち食感の新銘柄  
 つや姫 艶があつて粒ぞろい

JAグループ宮城  
 https://www.m-hozonai.jp

WEBからご購入できます!  
 JAタウン  
 www.ja-town.com